

皆さまからお寄せいただいた活動資金は、災害救護活動や被災者支援活動をはじめ、災害への備え、さらには地域の皆さまの安全安心や社会のニーズに沿った活動に役立てられています。

苦しんでいる人々を救いたい。



災害救護・災害への備え

日本赤十字社は災害対策基本法や国民保護法等の指定公共機関に指定されており、災害発生時には直ちに被災地へ医療チームを派遣し災害救護活動を行います。また、毛布や緊急セット等の救援物資を各地域に備蓄して災害に備えています。



国際救援

世界191か国の赤十字社等が協力し、災害や紛争で苦しむ国の人々に支援の手をさしめています。阪神・淡路大震災や東日本大震災でも、多くの国々から支援が寄せられました。



地域の安全安心

県内の交番等に救急医薬品を、各地域や警察施設等にAEDを設置しています。また各地域に毛布等の救援物資を備蓄するなど地域の安全安心に役立てられています。



講習事業

ケガや事故等の応急手当ての方法や、高齢者介護の方法を学ぶことができる講習会を各地で開催しています。



血液事業

輸血用血液製剤を扱う国内唯一の事業者として、安全な血液製剤を患者さんのもとに安定的にお届けできるよう努めています。



医療事業

地域の災害拠点病院、公的医療機関として、さまざまな防災訓練への参加等を通じて災害対応力の強化や地域医療の確保に努めています。



赤十字奉仕団

各地域で社会福祉や子育て支援等に取り組む地域奉仕団、専門的な技能をもった特殊奉仕団、学生等で組織される青年奉仕団が知識や技能を活かして活動しています。



青少年赤十字

児童・生徒が地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として、学校教育の中で様々な活動を展開しています。

県内の交番等に救急医薬品を配備

県内750か所の交番や警察施設に救急医薬品を配備しています。ケガや事故などで平成29年度は388件の利用がありました。

県内各地にAEDを設置

救命に役立てていただくよう各地域や警察施設など174か所にAEDを備えています。平成29年度は1件の使用がありました。

救援物資を備蓄

県内約60か所に毛布や緊急セット等の救援物資を備蓄しています。これらの救援物資は火災等の避難住民の方々等にも配付しています。

支援センターを活用した災害への備え

平成29年度から運用を開始した「災害救護支援センター」を有効活用し、日本赤十字社の全国救護班研修等の開催を通じて災害に備えています。

防災訓練等への参加

南海トラフ地震で近畿地方に甚大な被害が発生したとの想定で行われた大規模地震災害訓練に参加し、災害への備えとともに防災機関との連携強化を図っています。

日本赤十字社の活動資金として、兵庫県支部では500円を目安とした任意の金額でのご協力を願っています。
(なお、災害義援金は日本赤十字社の活動資金ではございません。)

平成31年度 活動資金の使いみち

16.6% 安全安心な暮らしのために
9,839万円



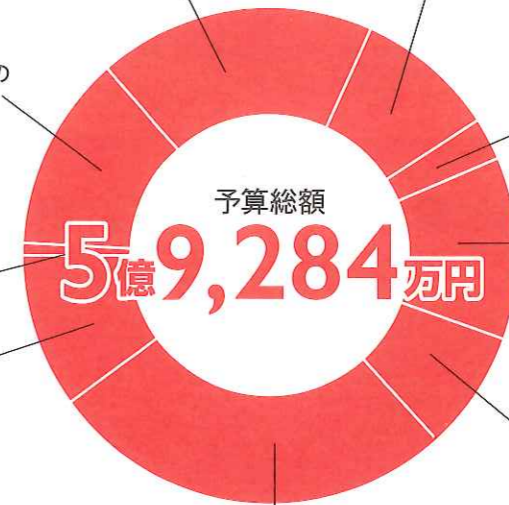
14.5% 国内外の被災者救援、災害に備えた救護体制の充実強化のために
8,614万円



0.8% 予備費として
500万円



11.0% 国際救援活動のために
6,510万円



赤十字奉仕団活動の活性化や青少年赤十字活動の充実のために
11.4%
6,733万円



赤十字活動の普及啓発や活動報告のために
3.6%
2,147万円

赤十字活動への理解と資金協力をお願いするために
12.6%
7,445万円

施設管理のために
10.1%
6,009万円



19.4% 組織運営のために
1億1,487万円

主な取り組み

国内外の被災者救援、災害に備えた救護体制の充実強化のために

- 災害救護事業及び防災訓練への参加 3,250万円
- 災害救援車両救護用資材などの更新・配備 820万円
- 警察施設へのAED・救急箱の整備 550万円
- 災害救護資機材等の整備 1,920万円
- 救護看護師の養成 760万円

安全安心な暮らしのために

- 救急法等講習の普及 2,410万円
- 救急医療体制の充実 6,770万円

赤十字奉仕団活動の活性化や青少年赤十字活動の充実のために

- 赤十字奉仕団活動の活性化 2,160万円
- 青少年赤十字活動の充実 1,260万円

赤十字活動の普及啓発や活動報告のために

- 赤十字活動普及啓発のための広報活動 1,105万円

赤十字活動への理解と資金協力をお願いするために

- 各地域での赤十字活動資金募集のための資材の充実 3,070万円

